

研究テーマ	自分の思いやイメージを進んで表現し、つくりだす喜びを味わうことのできる指導の工夫 —第6学年「心もぼかぼかランプシェード」の実践を通して—
-------	--

銚田市立舟木小学校 教諭 綿引香織

I 研究テーマについて

自分の思いやイメージを作品として表現することは、本来とても楽しいものである。しかし、自分の中で表現したいイメージがもてていないと、「何をつくったらよいか分からない」「何を描いたらよいか分からない」と、表現することを苦に感じてしまう。また、イメージをもつことができても、それを表す術を知らなければ「どうやってつくったらよいか分からない」「どうやって描いたらよいか分からない」と、作品づくりに取りかかることができなくなってしまう。そこで、児童が自分の思いからイメージをふくらませ、つくりだす喜びを味わうことのできるような指導の工夫をしていきたいと考え、研究テーマを設定した。

今回は、ゲストティーチャーの協力を得て、焼成用粘土を使用したランプシェードづくりを行う。焼き物づくりの楽しさを知っているゲストティーチャーから教わることで、つくり方への理解が深まるだけでなく、つくりだす喜びを感じながら製作に励むことができる。また、偶然できた形も作品のよさとして生かすことのできる粘土の魅力で、安心感やチャレンジする気持ちが高まり、自分の中のイメージを表現したいという意欲につながっていくと考えた。児童は、設計図をもとにひもづくりや玉づくり、板づくりの中から適したつくり方を選び、ランプシェードを製作する。出来上がった作品は焼成し、その中に明かりを入れて鑑賞することで、つくりだす喜びをさらに感じられるようにしていきたい。

II 研究の実際

1 題材名 「心もぼかぼかランプシェード」

2 題材の目標

- 家族への感謝の思いを込めて、粘土の重量感や質感を楽しみながら、意欲的にランプシェードづくりに取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 明かりを中に入れたときのことを考えながら、自分の思いやイメージを表現することができる。 (発想や構想の能力)
- ひもづくりや玉づくり、板づくりなどイメージした形に適したつくり方を考え、粘土の部品の付け方や彫刻刀、型抜きなどの用具の使い方を工夫してつくることができる。 (創造的な技能)
- 自他の作品について友だちと話し合いながら、表現の意図や特徴などを捉えたり、焼成前後の作品の違いや色、つや、手触りなどの特徴を感じたりすることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、アンケートからもわかるように、図工に対して苦手意識をもち、図工の時間を好んでいない児童が半数いる。ものを作ることは好きだと答えた児童も、イメージ通りに作れないことが多いという理由などから得意ではないと回答している。実際に、図工以外の普段の授業や生活の中でも、はさ

みを使って真っ直ぐに紙を切ることが難しい児童やうまく定規を押さえられず直線を引くことが難しい児童など手先が不器用な児童が多い。また、文集の空いたスペースに載せるイラストを描いた際には、半数以上の児童が人を棒状で表現するなど発想力の乏しさも目立つ学級である。

児童アンケート 実施日10月20日(6年1組 男9名,女2名,計11名)

- 1 図工は好きですか。
好き4名, まあまあ好き2名, あまり好きではない2名, 好きではない3名
- 2 図工は得意ですか。
得意2名, まあまあ得意3名, あまり得意ではない1名, 得意ではない5名
- 3 上記の質問に対してそのように答えた理由を教えてください。
 - <プラスの理由>
 - ・想像して描くことが好きだから。…1名
 - ・ものを作る, 工作をすることが好きだから。…3名
 - <マイナスの理由>
 - ・イメージ通りにつくったり描いたりできないから。…3名
 - ・上手につくったり描いたりできないから。…2名
 - ・発想が何も浮かばないから。…2名

(2) 題材観

本題材では、焼成用粘土を使用してランプシェードを製作する。粘土は、肌で重量感や質感を感じながら、形を自由に変えられるという魅力をもっている。また、偶然にできた形も作品のよさへとつながる粘土の特性により、「上手につくることができないから」「発想が浮かばないから」図工は苦手だと感じている児童に安心感を与え、つくることへの抵抗を減らしていきたい。そして作品が完成した時だけではなく、鑑賞でも、焼成して変化した色・質感や明かりを灯したランプシェードから、つくりだす喜びを味わうことができるのではないかと考えた。

(3) 指導観

自分から進んでつくろうとする児童が少ないため、ステップを踏みながら少しずつイメージをふくらませ、ランプシェードの製作を行っていく。まずは、陶芸家の作品を鑑賞し、ランプシェードとはどのようなものなのかをつかむことで、その特徴やよさ、「つくってみたい」という意欲を引き出していきたい。そして練習も兼ねて、油粘土を使って形のイメージを具体的にし、設計図を作成する。設計図には、穴をあけるところやどのように部品を付けるのか等の細かいところまで事前にメモをすることで、自信をもって製作に取りかかれるようにしていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
焼成に適した粘土を用いて、家族が喜ぶランプシェードをつくることに取り組もうとしている。	家族の生活を楽しくするような形を思い付いたり、粘土でつくりたい形を考えたりすることができる。	ひもづくりや玉づくり、板づくりなどイメージした形に適したつくり方を考えたり、粘土の部品の付け方や、彫刻刀、型抜きなどの用具の使い方を工夫したりしてつくることができる。	自他の作品について友だちと話し合いながら、表現の意図や特徴などを捉えたり、焼成前後の作品の違いや色、つや、手触りなどの特徴を感じたりすることができる。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

次	時	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 様々なランプシェードを鑑賞し、作者が表現したかったことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと話し合いながら、表現の意図や特徴などを捉えることができる。 鑑【鑑賞カード】
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 粘土に触れてその触感を楽しむ中で、自分がつくりたいランプシェードのイメージをふくらませ、設計図に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 明かりを中に入れた時のことをイメージしながら、家族の生活を楽しくするようなランプシェードの形を考えることができる。 想【設計図】
	3・4	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーから、粘土の特徴や玉づくり、ひもづくり、板づくりなどつくり方の基本を教わる。 つくり方を玉づくり、ひもづくり、板づくりの中から選び、設計図をもとに、ランプシェードの形をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ひもづくりや玉づくり、板づくりなどつくりたいランプシェードの形に適したつくり方を考えることができる。 創【作品】 粘土の部品の付け方や彫刻刀、型抜きなどの用具の使い方を工夫してつくることができる。 創【作品】
	5	<ul style="list-style-type: none"> 乾いて固まってきたランプシェードに光がもれるための穴をあけ作品を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 明かりを灯した様子をイメージしながら、用具の使い方を工夫して穴をあけることができる。 創【作品】
3	6	<ul style="list-style-type: none"> 焼成して完成したランプシェードに明かりを入れ、鑑賞をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと話し合いながら、焼成前後の作品の違いや色、つや、手触りなどの特徴を感じることができる。 鑑【鑑賞カード】

6 指導の実際

【第1次】

① 様々なランプシェードを鑑賞し、作者の表現したかったことを話し合う。

陶芸家の作った様々な形のランプシェードの写真を黒板に掲示し、鑑賞活動を行った。素敵だなと感じたところや気になったところなどを話し合いながら、それぞれの作品の特徴を捉え、作者の表現したかったことを考えた。その後、掲示してある10の作品の中から気に入った2つを選び、その理由を鑑賞カードにまとめた。また、写真だけではわからない陶器のよさを感じられるように、ゲストティーチャーが作った2つの作品をお借りし、実際に触れたことで、児童は手触りや質感を味わうことができた。

鑑賞活動を導入で行うことで、「何をつくったらいいかわからない」と不安を抱えていた児童も、イメージをふくらませて「私もつくってみたい」と意欲をもつことができた。



この2つが、ゲストティーチャーからお借りした作品である。実際に触れることで、同じ陶器でも触り心地やつやに違いのあることを感じる事ができた。

【第2次】

② 粘土に触れてその触感を楽しむ中で、自分がつくりたいランプシェードのイメージをふくらませ、イメージを設計図に表す。

鑑賞活動でふくらんできたイメージをより具体的にし、設計図として表すため、油粘土で自由に形をつくる活動を行った。焼成用の粘土は、空気が入ってしまうと焼いたときにひびが入ったり割れたりしてしまうため、ここでは代わりとして油粘土を使用した。イメージが固まった児童から、設計図を描いた。活動を進めていくと「もっとちがう形もつくってみたい」と、第2案、3案を次々に設計図として表す児童が多かった。

② ゲストティーチャーから、粘土の特徴や玉づくり、ひもづくり、板づくりなどづくり方の基本を教わる。

十数年前から趣味で陶芸を行っているゲストティーチャー（本校の3年1組担任である都築和恵先生）から、つくる上での注意点や陶芸の基本を教わった。玉づくり、ひもづくり、板づくりの特徴について、実演を見ながら教わった児童は、自分のイメージする形はどのづくり方でつくとよいのかをよく考えていた。



ランプシェードづくりの中でも最も大切な場面をゲストティーチャーからご指導いただいたことで、児童は普段とは違ういい緊張感をもちながら真剣に話を聞き、陶芸への理解を深めることができた。また、本校に勤務する教員をゲストティーチャーとしたため、疑問点などは恥ずかしがらずにその場で聞くことができ、安心して製作に取りかかることができた。



黒板に掲示してあるものが、第1次で鑑賞した陶芸の作品である。鑑賞活動で感じたことを思い出しながら製作できるよう、第2次でも黒板に掲示した。

③ つくり方を玉づくり、ひもづくり、板づくりの中から選び、設計図をもとに、ランプシェードの形をつくる。

ゲストティーチャーから教えていただいたことをもとに、児童が玉づくり、ひもづくり、板づくりの中から適切なつくり方を選び、製作を始めた。少ない人数の学級であるため、ゲストティーチャーと担任を囲むようにし、児童が困ったときにはすぐに、指導・支援ができるよう学習形態の工夫をした。粘土に空気が入ってしまうといけなため、一発勝負であったが、イメージをしっかりとって設計図を描いたため、児童は思い思いに製作を進めることができた。



⇒玉づくり



⇒ひもづくり



⇒板づくり



焼成した際に割れたり、部品が取れたりすることのないよう、細かいところまでゲストティーチャーと担任で指導を行った。

一つ目のランプシェードが出来上がり、粘土が余っている児童は、二つ目の製作を行った。設計図の第2案、3案を、大きさを考えながらつくる様子が見られた。



③ 乾いて固まってきたランプシェードに光がもれるための穴をあけ、作品を仕上げる。

2時間で形づくったランプシェードを日光の当たる窓辺に置き、穴をあけても形が崩れない程度まで乾燥させた。粘土がよい状態になってきた所で、彫刻刀や爪楊枝、クッキーや野菜などで使う型抜き等を使用しながら、光のもれる穴をあけた。あける穴の大きさや形をよく考えて道具を選び、作品の仕上げを行った。



⇒彫刻刀の利用



⇒型抜きの利用



穴をあけ、仕上げた粘土は、2週間ほど教室の窓辺で乾燥させた。その間、児童は少しずつ変わっていく粘土の色に興味深そうに毎日観察していた。



【第3次】

④ 焼成して完成したランプシェードに明かりを入れ、鑑賞をする。

毎日、「まだ出来上がらないのですか」と焼き上がりを楽しみに待っていた児童。段ボール箱を開け、新聞紙に包まれている一つ一つの作品を全員で大事に取り出し、自分のランプシェードと対面した。色の指定はできなかったため、開けるまでどんな色に仕上がっているかわからなかった児童は、「すてきな色だ」「〇〇さんのその色、作品に合っているね」と自分の作品だけでなく、友達作品にも興味をもっていた。

豆電球に半紙を巻き付け、あたたかい雰囲気のある明かりをつくり、それぞれのランプシェードに入れた。明かりのあたたかさを引き立たせるため、窓に段ボールを貼りカーテンを閉め、薄暗くした教室で鑑賞を行った。



半紙を巻いて、つくった明かり



⇒それぞれに色が付き完成したランプシェード



⇒明かりを入れたランプシェード



⇒暗くした教室での鑑賞

教室を明るくして作品をそれぞれの机の上に置き、鑑賞カードに感じたことをまとめた。6年教室の臨時展示場を自由に歩き、気になった作品を見つけては作者にインタビューしたり、感じたことを友だちと話し合ったりしながら、作品を味わうことができた。

窯のどこに置いて焼いたかによって焼成時の温度が変わって色合いに変化が表れ、釉薬の種類によって表面がつるつるに仕上がったりざらざらに仕上がったりと違いが生まれることを知った児童は、それぞれの作品の特徴を細かく観察して、カードにまとめていた。



【児童の作品の一部】

(写真1枚が児童1名分の作品。余った粘土を使って、2つ目、3つ目の作品を制作する児童が多かった。)



III 研究の成果と課題

- ゲストティーチャーの協力により、焼き物への理解が深まったばかりでなく、児童は作りだす喜びを感じながらランプシェードづくりに取り組むことができた。最初のアンケートで「図工が苦手である、好きではない」と答えていた児童も、本題材の授業後のアンケートでは、「つくることがとても楽しかった」と前向きな回答をしていた。少なからず全員が作りだす喜びを感じる事ができた。
- 家族への感謝の思いが込められたランプシェードを見たおうちの人からは、「子どもから話は聞いていたが、こんな素敵な作品になっているとは思わなかった。」「味があっておもしろい。」「寒い冬だからこそ、ランプシェードの明かりをよりあたたかく感じる。」等の感想をいただき、児童も満足げな表情であった。
- 油粘土を使用することでイメージの具体化を図り、設計図を作成したが、それでも自分で納得のいくイメージをもてなかった児童がいた。そのような児童にはもう少し時間を与え、周りにあるものや第1次で鑑賞した作品からヒントを得られるよう、もっといいねいな指導が必要である。
- 教室を暗くして鑑賞を行ったが、ランプシェードとしてのよさをより引き出せる方法はないかと考えていたところ、先生方から「床ではなくテーブルに布を敷き、その上にランプを置いて鑑賞すると見え方がずいぶん変わる」とのアドバイスをいただいた。次にまたこのような機会があった時には実践してみたい。また、話し合いの中で出てきたつぶやきや言葉がワークシートには表れていなかったため、感じたことを表現しやすい鑑賞ワークシートの工夫が必要である。